

～東北再生可能エネルギー利活用大賞受賞～

「秋田産電力」を支える人々③ 佐藤 國男 氏

●素材生産事業者（兼林業者）●  
秋田グリーンサービス代表取締役社長



「いかに効率よく木材を乾燥させるかが課題」と話す佐藤氏

「秋田産電力」を打ち出して進めるユナイテッドリニューアブルエナジーのバイオマス発電事業。最大の強みとなっているのは、秋田県全域の素材生産事業者（兼林業者）から燃料となる木質チップを受け入れる仕組みを構築していることだ。

その一つである秋田グリーンサービスは、秋田市で長く林業に取り組む老舗企業だ。同社の佐藤國男社長は、林業の現状について「秋田は山に囲まれており、戦後盛んに植林したものを

間伐材等がお金になり雇用も生まれる



木質チップ製造では移動式の破砕機を採用

収穫しなければならぬ時期に來ている。しかし、木造住宅の需要が減ったり外材に押されたりで、なかなか木材に値がつかない状態になっている」と話す。そうした中でバイオマス発電事業に参加することを決めた。「住宅の材などに使えるものは限られており、それ以外は切り出してもお金にならず放置されていた。こうしたお金にならなかつた木材や間伐材が燃料用のチップとして安定的にお金

になるのは大きいし、それによって雇用も生まれる」とする。同事業を開始するのに際して、新たに5人の従業員を採用した。

同社では他の林業者と異なり、機動的に対応できるよう移動式の破砕機を採用している。バイオマス燃料として木質チップを供給するに際しては、「燃やして燃料にするということ、いかにコストを抑えて効率よく乾燥させるかが課題」とする。風通しを良くするよう木材の間隔をあけて保管するなど、現在さまざまな工夫を凝らしながら模索しているところだ。今後については、「林業は木を切って終わりではない。切った後には植林して育て、次の世代に渡していかねければならない。そのためにはまだまだ採算面等改善していかねければならないことは多い」と、引き続き秋田の林業活性化に尽力していく考えだ。